

J R 総連通信

2024年9月13日 No.1772

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

ローカル線と鉄道貨物輸送の

維持・活性化にむけた検証会議開催！

JR総連は9月12日、目黒さつきビルにおいて「ローカル線と鉄道貨物輸送の維持・活性化にむけた検証会議」を開催しました。会議には、JR総連推薦議員懇談会の衆議院議員谷田川元氏、参議院議員堂込麻紀子氏、交運労協政策推進議員懇談会の参議院議員森屋隆氏のほか、国会議員秘書の皆さま、各地域でローカル線や鉄道貨物輸送の維持・活性化にむけて活動されている代表の皆さま、各単組・労連の仲間が結集し、これまでの取り組みの成果や課題について共有しました。

また、宮城県議会議員佐藤仁一様より、「ローカル線とまちづくり8対7ドラ



谷田川議員



堂込議員



森屋議員



佐藤議員

マ！」と題して講演をいただきました。講演では、まちづくりの視点を入れた地域活性化と鉄道の活用について、地域の想いを踏まえた公共交通の考え方や地域づくりの視点について、労働組合・市民・利用者の討議が大切であるとアドバイスをいただきました。



地域からの報告をされた方々

地域からは、「存続危機だった伯備線の鉄道貨物輸送が機関車更新によって存続が決定した」「山陰線、姫新線、播但線、加古川線では、地域からの要望を自治体やJRに声を届けているがリアクションがない」「八戸線では朝市に合わせた臨時列車の運行を地域と共につくりだしてきた」「陸羽東線の取り組みでは、自治体における温度差の課題がある」などの報告がされました。

7月末の災害で不通が続き、復旧見込みが立っていない陸羽東線について、「陸羽東線の早期復旧を求める署名」を各単組の協力のもと取り組み、りくとうサポーターズに3441筆を手渡してきました。



意見交換では、「JRは地域の実情を考えていない」「労働組合と共に取り組むことが大切」「鉄道単体ではなく、まちづくりの中で通勤・通学の足を確保し、交流人口を増やすなかで鉄道を利活用することが必要」などの意見が出されました。

**JR総連は、引き続き地域との連帯・共闘のさらなる拡大を通して
ローカル線と鉄道貨物の維持・活性化に取り組みを進めていきます。**